



Via Latina 22

2023年5月 321号

総本部よりのお知らせーマリア会

イタリア地区長の任命1

Miguel Ángel Cortés師でシャミナード国際神学校校長として再任...2

2022年～2023年、マリア会教育事業の統計2

ポーランドからの撤退3

Miguel Ángel Quirogaの列福調査5

教皇フランシスコの若者たちのための祈り5

イタリア地区長の任命



総長評議員会は意見聴取の結果を吟味した後、Davide Gozio士を第2期目の任期でイタリア地区長として任命しました。彼の任期は2023年6月29日に始まり、その後3年間となります。地区の会員たちはDavide士がその第1期の地区への奉仕に寛大さと情熱をもって積極的に任務を果たし指導力を発揮したことに満場一致の意見を示しました。

彼らは特にDavide士の奉仕のセンスと会員たちへの配慮を注目しました。彼らは更にDavide士の、全ての兄弟たちとの対話能力と、地区の活動においてすべての会員を参画させようとする熱意を高く評価しました。総長評議員会は、Davide士がこの任務を信仰の精神と寛大な心で受け入れてくれたことに感謝します。

Miguel Ángel Cortés師、第二期目のシャミナード国際神学校校長としてを再任される

総長とその評議員会は、Miguel Ángel Cortés師に次の3年間ローマのシャミナード国際神学校の校長職を継続するよう要請しました。Miguel Ángel Cortés師はこの新たな奉仕への呼びかけを寛大な心で受け入れました。私たちは彼がこの任務を快く継続してくれることに感謝します。



過去3年間、彼の指導を受けた神学生たちは、自分たちのために尽くしてくれた彼の任務を高く評価しています。特に、彼の提言で、また総長評議員会との話し合いで、神学生の養成計画は見直されました。ローマでの3年間は、特別な強調点は神学生の人間的そして霊的成長に置かれることが計画されました。“4年目”には、通常、各神学生の出身行政単位で生活し、強調点は司祭叙階の直接の準備として助祭の司牧養成にあります。神学生養成の奉仕におけるこの新しい方法の導入は、近い将来の養成者の重要な任務になるでしょう。

私たちは、神学生とマリア会の善ために彼が尽くしている優れた奉仕に対し、Miguel Ángel師に感謝します。そしてまた、私たちはFrédéric Bini士にも感謝します、彼はこの計画の実現のために副校長としてMiguel Ángel師と共に任務を継続します。また、この2名の兄弟たちの出身行政単位、スペイン管区とトーゴ地区に、この任務のため彼らを派遣してくださっていることに感謝しましょう。

2022年～2023年 マリア会教育事業の統計

この時期に毎年行っているように、私たちは皆さんに2022～2023年度のマリア会の教育事業に関する統計データを提供します。パンデミックによる困難な期間を終え、私たちの教育施設の活動は平常に戻りつつあり、入学者数も増加が見られます。今年最大の増加はフランスに見られ、その東部地域でサン・ディエのSainte Marie教育施設が近隣の教区の学校を吸収して拡大したことです。この全てはフランス地区がサン・ディエ教区と理事職を分かち合う形に置かれました。その他の行政単位に関しては、前年に比較して従業員の数に多少の変動があります。

更なる情報は私たちのwebsiteで入手してください：www.marianist.org ここからマリア会教育事業の統計名簿の電子バージョンをダウンロード出来ます。

行政単位	学校数	生徒数	教員数	マリア会員	管理職	奉献者数
ラテン・アメリカ	17	21655	1865	15	324	31
東アフリカ	9	4966	229	11	48	39
スペイン	20	24118	1779	24	233	79
フランス	10	11845	871	10	395	26
コートジボアール	2	2901	125	6	29	10
イタリア	1	870	80	0	3	3
日 本	4	5692	486	1	70	8
韓 国	1	473	46	1	5	3
メリバ	3	4664	275	23	36	25
オーストリア	3	2407	223	0	20	3
トーゴ	3	1484	114	24	22	25
USA (大学以外)	17	10722	1025	7	591	27
USA (大 学)	3	17043	1126	6	632	47
USA (合 計)	20	27764	2151	13	1223	74
インド	7	3481	145	24	19	25
SM 合計	100	112321	8389	152	2427	351

マリア会、ポーランドから撤退

数か月前に、スペイン管区はピアストッフ(ワルシャワ)にある私たちの共同体を6月末に閉鎖することを決定しました。これはポーランドに存在する唯一のマリア会共同体です。この決定は、もちろん、この共同体の会員たちにとって、またこの地で彼らと関係を持っている全ての人たちにとって、苦渋の決断です。マリア会にとってもこれは豊かな教会的、文化的現実からの撤退を意味します。

しかしながら、これはまたポーランドでの私たちの29年間の存在の間に賜った全てのお恵みに感謝

する機会でもあります。

1991年の総会がこの新創設を勧告しました。その勧告に応じて、1994年にチェンストホヴァという MARIA 信心で知られた都市に最初の共同体が設立されました。その時点の宣教活動は主に学生寄宿舎を活気づけることでした。2007年に、会員たちはワルシャワの郊外、ピアストッフの町に移りました。そこで彼らは地元の小教区との繋がりが出来ました。この繋がりに、2つの信徒 MARIA ニスト共同体が生まれました。一つは若者のため、もう一つは成人のためです。それから会員たちはポーランドの MARIA ・コングレガシオンによって運営されている中学校で働くよう要請されました。Emilio Cárdenas 師はその MARIA ・コングレガシオンの指導司祭です。この活動において、彼らはこの学校のためにスペイン語クラスを設け、また霊的活性化をもたらしました。



José Ignacio Iglesia 士 (左) と Emilio Cárdenas 師 (右)
2019年、ピアストッフ小教区で福者シャミナード師の遺物の設置したおり

これらの活動は、多くの絆や友情、そして高い評価の源となりました。これらの絆は消滅してしまうことはないでしょうし、また蒔かれた種は実りを生み出し続けることでしょう。2019年に、この小教区の司祭の要請でシャミナード神父の遺物がピアストッフ小教区に設置され、それ以来そこに安置されていることを思い出しましょう。私たちはまた2つのMLCがこの美しい国で MARIA ニストの存在を継続しているのを知って嬉しく思います。

私たちはポーランドで働いた会員たち、とりわけ Emilio Cárdenas 師と José Ignacio Iglesia 士に、この地での彼らの長年に渡る寛大で創造的な奉仕活動に感謝します。

Miguel Angel Quirogaの列福調査

キブドの教区は若きマリアニスト修道者、Miguel Ángel Quiroga (Michel) の列福調査の開始を熱心に待っています。1998年彼は小教区の要理教師グループを守ってコロンビアのリョロにて準軍隊に殺害されました。私たちはマリア会、Carlos Julio Barragán師が先の3月28日と29日にキブド教区の教皇庁管理者、Mario Álvarez司教を訪問した時にこの朗報を得ました。

Carlos師は3月28日、Mario Álvarez司教と最初の個人的な会合をもちました。その翌日、彼はÁlvarez司教と神学者、歴史学者の審議委員たちに会いました。この会議で審議委員たちはCarlos師に、Michelの生涯、および私たちの兄弟が教区、マリアニスト、そして全教会のために“英雄的愛の行為で命を捧げた”ことの列福調査の継続の重要性について報告書を提出するよう要請しました。Carlos Julio師は、列福調査において今までに取られた全てのプロセス、以前Barreto司教に提出したSupplex Libellus (シンプルな小冊子) の内容、およびこれからの取るべきプロセスを細かく説明しました。



Álvarez司教は教皇庁管理者なので列福調査を開始出来ないけれども、3月29日の会議に出席した全員は、新しい司教が任命されるとき、彼にMichelのこの列福調査の重要性について報告すると強い熱意を表明しました。全員が列福調査を支援し、これを成功に導くことの重要性を理解するという強い熱意を表明しました。出席者全員、楽観的希望で会議を終え帰路につきました。今、私たちは、列福調査を予審する教区審議会を立ち上げるであろうと期待するキブドの新司教の任命を待たねばなりません。

Mario Álvarez司教は、審議委員たちとの会合、および3月29日のキブド大聖堂でのミサの説教において、Michelの列福調査と、他者の善のために捧げられた彼の生涯の証しを支持し続けるのは価値があるという彼の強い確信を全ての人と分かち合いました。司教はその説教で、Michelの生涯と、彼が英雄的愛の行為において準軍隊から要理教師のグループを守って遂げた非業の死について見事な描写を行いました。最後に、すべての信者たちから大聖堂内に響き渡る熱狂的な拍手がありました。ですから、親愛なる兄弟姉妹の皆さん、私たちはこの列福調査を推進してまいります。

教皇フランシスコの若者たちのための祈り



主イエスよ、シバスへ向かって歩む中、あなたの教会は全世界の若者へ眼差しを向けています。私たちは彼らが勇気を持って自分たちの生活に責任を持ち、彼らが最も美しく奥深いものに憧れ、そして常に自由な心を保てるようあなたにお祈り致します。

賢明で寛大な指導者に伴われ、彼らが一人一人になされるあなたの呼びかけに応え、人生のふさ

わしい計画を実現し、幸せに至るよう、彼らをお助けください。

彼らの心を偉大な夢を夢みることに開かれたままにし、彼らが他者の善に関心を持つようにしてください。愛された弟子のように、あなたからの賜物としてあなたの母を受け入れるために、彼らが十字架の下に立ちますように。彼らがあなたの復活の証人になり、彼らがあなたを喜んで主と告白するとき、あなたが彼らのそばにおられるのに気づきますように。
アーメン。



福者シャミナードへの祈りの意向

私たちはUSA, MLCメンバーのMrs Brendaの病気治癒のため福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードにノベナの祈りを捧げてくださるようお願いいたします。Brendaは段階3の乳がんがんで苦しんでいます。これは、マリア会の故David Fleming師の妹、Marceta Fleming Reillyによって依頼を受けた祈りの意向です。



第36回総会（2024年7月）の準備

第36回総会（2024年）：共同体での意見聴取はあと5ヶ月です、私たちの協働者と友人たちと共にこの機会を逃さないようにしましょう！

最近の総本部通信

- 計報：9号
- 4月27日： 第36回総会の準備：“マリアニスト家族における若者たちと共に、そして彼らのための司牧ケア”を進んで活用する機会。総長評議員会から行政単位責任者へ3ヶ国語で送付

総本部日程

- 4月24日－5月3日：教育局長Maximin Magnan士がオーストリア・ドイツ地区を訪問
- 5月16日－22日：総長André-Joseph Fétis師と財務局長Michael Award士がバンガロールでインド従属地区集会に出席
- 5月25日－26日：総長André-Joseph Fétis師がローマでの総長連盟会議に参加